

ケニア事務所 活動報告

会員総会 2026年9月13日

八木 志津子
北島 慶子
現地スタッフ7名



目次

1. 幼児の栄養改善
2. 生物多様性保全
3. 今後の予定



目次

1. 幼児の栄養改善

プロジェクト概要

前年度の課題と取組み

主な成果

グッドプラクティス・教訓

2. 生物多様性保全

3. 今後の予定



地域に開かれた幼稚園 ケリチヨ一郡の幼児の栄養改善に向けて

(JICA草の根パートナー型事業 2022年-2026年)



対象準郡 ソイン・シゴウエツト
西キプケリオン

対象幼稚園 カボセンオ、バレゲイウエツト
カプクレスA、カプレリット

プログラム



①幼稚園成長モニタリング



③モデル学校菜園



⑤食事モニタリング家庭訪問



②給食



④2, 3歳児の親子教室



⑥幼稚園栄養デー〈継続発展の仕組み〉



前年度の課題

取組み

栄養状態

栄養不良は減少したものの、1年のある時期だけ栄養不良が増加する。なにかできないか。

備蓄方法：1年分の一家の備蓄量、保存方法、休耕地の活用。

食事の質

(IDDS 最高 8 食品群)

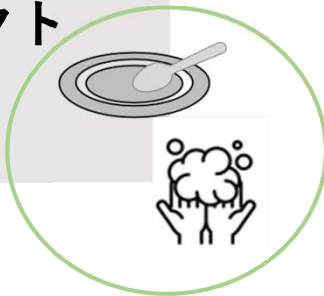
食品群の数は順調に増加したものの栄養状態同様、季節に左右。

サツマイモの葉：一般的な葉野菜より気候変動や干ばつに強い低利用作物。



1. 幼児の栄養改善 – 主な成果

プロジェクト 目標



ケリチヨー郡の対象準郡において、幼児（2歳から5歳）の栄養状態が、食事のバランスや衛生環境・習慣の向上を通して改善する。

指標

1. 事業終了時までに対象幼稚園全4校とそのプレイサークル参加幼児の急性栄養失調児(Wasting)の割合（％）が5ポイント減る。
2. 事業終了時までに対象幼稚園全4校とそのプレイサークル参加の幼児のIDDS（Individual Dietary Diversity Score）の平均値が少なくとも0.5上昇する。
3. 事業終了時までに対象幼稚園全4校とそのプレイサークル参加の幼児の下痢症を患う一月当たりの回数が、平均10%減る。

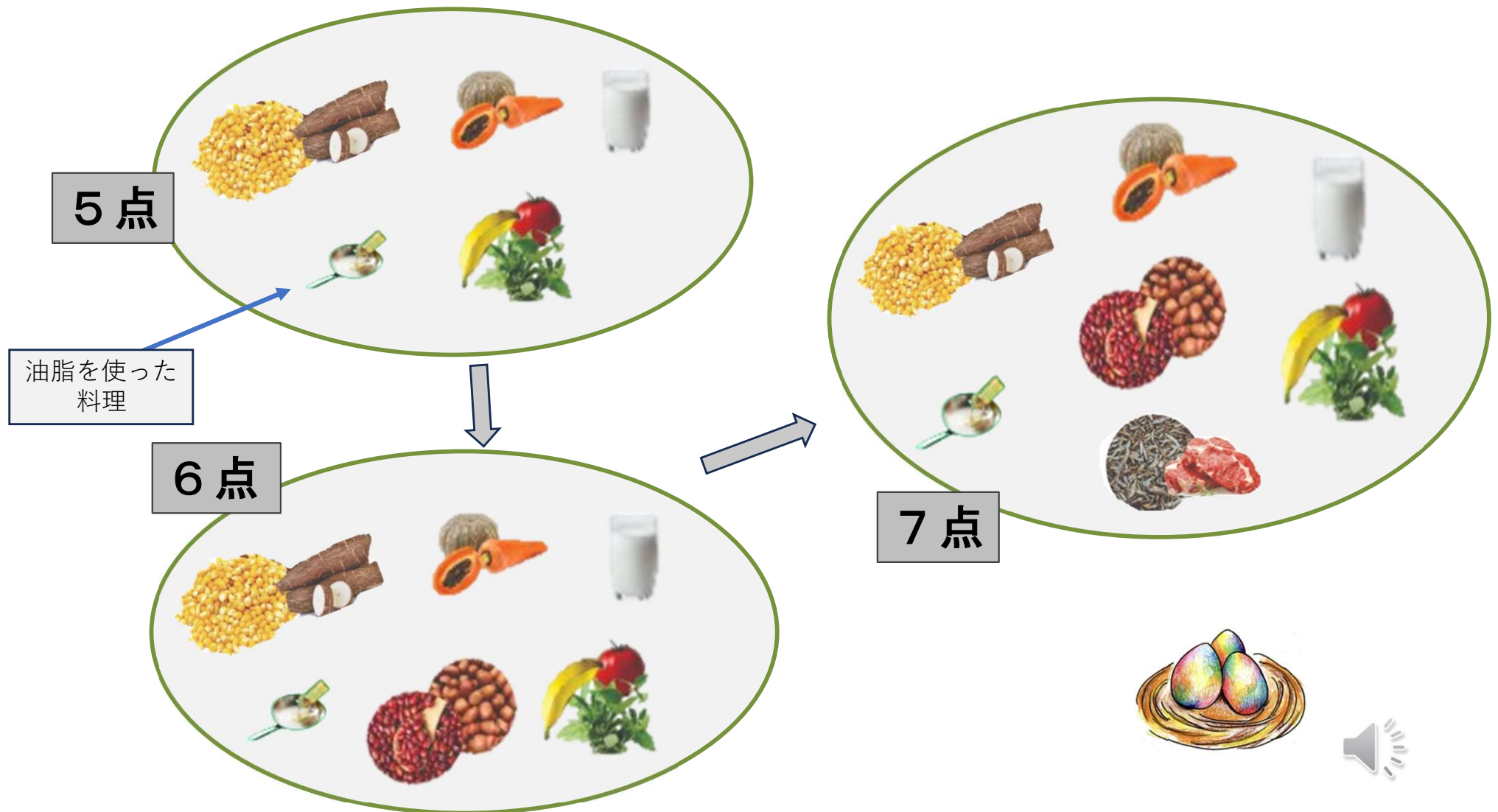
1. 幼児の栄養改善 – 主な成果

プロジェクト目標評価指標と達成状況

指標（目標値）	ベースライン	エンドライン	結果
1. 園児の急性栄養失調の割合 （5ポイント減少）	45.3%	37.2%	8.1減少
2. 食事の質（多様性）を表す IDDSスコア（0.5点上昇）	5.12点	6.25点	1.13上昇 ($p<0.01$)
3. 過去1か月間で下痢を患った幼 児の割合（目標値未設定）	12.5%	3.8%	8.7減少 ($p=0.03$)



典型的な一日の食事構成（多様性）点数別比較



1. 幼児の栄養改善 – 主な成果

プロジェクト目標評価指標と達成状況

指標（目標値）	ベースライン	エンドライン	結果
1. 園児の急性栄養失調の割合 （5ポイント減少）	45.3%	37.2%	8.1減少
2. 食事の質（多様性）を表す IDDSスコア（0.5点上昇）	5.12点	6.25点	1.13上昇 ($p<0.01$)
3. 過去1か月間で下痢を患った幼 児の割合（目標値未設定）	12.5%	3.8%	8.7減少 ($p=0.03$)



1. 幼児の栄養改善 – 主な成果

衛生習慣

基準を満たす手洗い設備がある家庭の割合

	($p < 0.01$)
2023年5月6月	17.5%
2026年4月5月	79.0%

幼稚園での給食前の
手洗い



ティピータップを器用に
使う3歳児



ミスターティピータップ
とカエルのトミーの
人形劇



父親が見守る中、2歳児に
ティピータップの使い方を
教える母親



家庭菜園

5つの作物グループを栽培している家庭菜園を持つ家庭の割合

	(p<0.01)
2023年5月6月	20.0%
2026年4月5月	46.7%



8つの区画に5つの作物グループを栽培している幼稚園モデル菜園



子どもにもミニチュア家庭菜園を造って作物を育てさせている母親と担当のCHP

母親の意識

栄養がよいと病気にかかりにくくなる、と答えた母親の割合

	(p<0.01)
2023年5月6月	65.0%
2026年4月5月	86.7%

栄養は我が子の学校での成績に重要だ、と答えた母親の割合

	(p<0.01)
2023年5月6月	32.5%
2026年4月5月	67.6%

1. 案件実施の意義

2. 幼稚園栄養デーから学校保健へ



目次

1. 幼児の栄養改善
2. **生物多様性保全**
3. 今後の予定

ケニアのコミュニティと取り組む生物多様性保全と普及

期間：2025年4月～2028年3月

対象：ケニア共和国ケリチー郡とビヒガ郡

ケリチー郡 小学校1校、大学農業科学部、
農家グループ、伝統知を保有する未亡人グループ
ビヒガ郡 ユース（18～35歳）

上位目標

ケニアの次世代を担う子供、若者世代が、伝統知を保有する地域の大人たちと協力し、地域の生物多様性の重要性を理解し、それを守るための行動をとる。

活動内容：

- 地域の**伝統野菜や伝統食文化・自生樹木の調査・記録**活動を行う。
- 伝統的な食文化とそれにまつわる社会/文化的な背景の調査を通じ、**地元の生物多様性について理解**する。
- 学んだ文化的遺産の普及活動（地域住民への普及、フードデモ、伝統作物の栽培・販売、自生種の樹木の育成等）を行う。
- 自生種の林づくりと泉の保護工事



○ 事業実施地域

https://www.researchgate.net/figure/Kenya-County-names-as-of-2014_fig2_264348974

伝統知を次の世代へ！そして学んだ知識・技術を行動へ！



寡婦グループによる郷土食デモで、調理法を学ぶ地域の子供たち



自然林でのコミュニティとの森林保全活動を見学する農業クラブの小学生



生活に大切な伝統植物について語る大学生



地元の農業生物多様性について発表する大学生



有機たい肥作りを学ぶ寡婦グループ

成果

・各グループで活動に活発に参加したメンバー数：

Kipsitet小学校84生徒、ユースグループ12名、農家グループ11名、寡婦グループ33名、大学生21名。（計161名）

・記録した作文と記録した伝統食文化の数：Kipsitet小学校104本・138個、ユースグループ16本・18個、農家グループ7本・7個、寡婦グループ59本・51個、寡婦グループが普及した日曜学校に通う子供たち10個、大学生21本、25個。

・Biodiversity SHEP研修に参加し他グループメンバーたちは、周辺住民・市場・学校への自生・伝統作物の販売を開始。寡婦グループはグループ農園で作物を育てている。



目次

1. 幼児の栄養改善
2. 生物多様性保全
3. **今後の予定**

さらなる生物多様性保全活動と普及と定着へ！



生物多様性事業で活動する農家グループを含む周辺コミュニティにとって欠かせない泉の保護活動。
泉の保護工事で、清潔な水へのアクセスが改善された。今年度は、自生種の苗木の植林等を通じて水源を生かしている自然環境を守る。18